

Let's try!

間違い探しクイズ

上下で違う箇所を
10コ探してね!

02 対談特集

大音の音楽はホントにスゴい!

歌に愛をこめて

晴 雅彦准教授

並河 寿美准教授

06 音楽と生きる

中村 恵理さん

田中 宏幸さん

あなたは何個
見つけられる
かな?

正解はP13の下にあります

CONTENTS

05 PICK UP!
イル・
カンビエロ

10 大音生リアル
Tutti 編

11 キラリ★輝く
大音の星
・コンクール受賞
・NEWリリース

12 NEWS Index
・秋のオープン
キャンパス 他

14 演奏会
Information
9月～12月

15 CAMPUS
Information

16 ・下手の考え
休むに似たり
～学長日記～
・教員リレーエッセイ
井上 麻子
(サクソフォーン・講師)

卒業してから 実感した大音の即戦力

—お二人は同じ時期に学生時代を過ごしていらっしゃるのか。

晴 私が4年生の時に、ちょうど1年生で入ってきたのが並河先生。その頃から彼女は輝いていましたよ。魅力的な声を持っているのはもちろん、きちんと勉強されていた。

並河 学年が違ってもみんなとても仲が良かったですね。晴先生はもちろんその頃から有名人でした(笑)。

晴 授業が厳しかったし、とにかく忙しかったんです。毎週のように譜読みの課題が山のように出される。イタリア語もドイツ語もフランス語もすべて原語で読まなければならぬから、単語の意味を調べて理解するだけでもかなり大変。私はドイツ語が苦手だったから相当苦労しました。

並河 なにしるたぐさんの曲をこなさなければならなかったから、無理やりにも頑張りました。そのことが後々ものすごく役に立ちましたよね。

晴 そう。いつの間にかドイツ語も好きになっていったし、レパートリーも広がりました。なんといっても、卒業後すぐに即戦力として大舞台に立てるようになったことが一番の収穫です。とにかくレッスンと授業だけでも歌わせてもらえる時間が豊富にある。加えて、今ではザ・カ

演奏家として 培った経験を 後進に伝えて いきたい

—教育者として、そしてプロのオペラ歌手として大活躍されているお二人ですが、演奏者として心掛けていることはありますか？

並河 私たちの仕事はとにかく体が資本。とはいえ私はできる限り特別なことはせずに、本番前も普段通りに過ごすようにしています。体調の良し悪しは精神的な影響も大きいから、自分の体に問いかけてみることで「この程度なら大丈夫」「これ以上はムリ」というのがおのずとわかってくるのです。自分の体が欲するものを食べ、睡眠時間などに関してもあまり神経質にならないようにしています。

晴 私は並河先生とは逆で、かなり神経質かもしれません。空調に敏感なのでクーラーは絶対切つて寝るし、冬は乾燥に弱いからノドにタオルを巻いてマスクをして加湿器を使います。

並河 オペラ歌手というイメージで歌っているだけのように見えるかもしれないけれど、譜読みや外国語の習得などデスクワーク的な勉強にも力を入れます。今、教員として学生の指導をしています。これも私たちが

レッジ・オペラハウスやミレニアムホールという大きな違うホールを身近で使えることは大きなメリットですね。

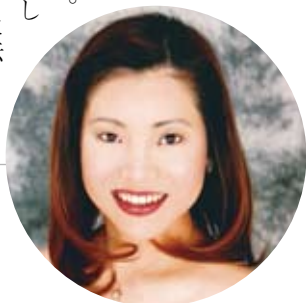
並河 私は、学生の頃に先生に聞いた雑談のような話がとても印象に残っているんです。例えば「ノドの調子が悪い時にはこういう方法がいいよ」なんていうちょっとしたアドバイスに「ああ、そうなんや」と納得することが多くて。プロとして現場に立っているからこそ聞ける話が、学生としては大変に魅力的でした。

晴 今や日本だけでなく世界レベルで活躍している同級生や先輩・後輩がたくさんいることも良い刺激になっています。今があるのは学生時代から切磋琢磨する環境に身を置くことができたおかげかなと思います。

対談特集 大音の音楽は ホントにスゴイ！

歌に 愛をこめて

共に大音で学び、オペラ歌手として
今や世界で活躍するお二人。
大学時代の思い出や歌に込める思い、
大音生へのメッセージを
語っていただきました。



ソプラノ

並河 寿美

なみかわ ひさみ ● 新国立劇場主催公演「おさん一心天綱島より」(世界初演)に題名役、「蝶々夫人」題名役、びわ湖ホール／神奈川県民ホール共催公演「トゥーランドット」「アイーダ」「タンホイザー」、兵庫県立芸術文化センター佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ「蝶々夫人」「魔笛」「メリー・ウィドウ」「トスカ」等いずれも高い評価を受けている。最近ではワーグナー作品にも取り組み、新たにレパートリーを広げつつある。ズービン・メータ指揮／NHK交響楽団 ベートーヴェン 第九のソプラノソロとして出演。兵庫県芸術奨励賞、音楽クリティッククラブ賞 他受賞。



◀▼歌劇「トスカ」
(兵庫県立芸術文化センター・2012
年7月)撮影：飯島隆



バリトン

晴 雅彦

はれ まさひこ ● 文化庁派遣在外研修員としてドイツ・ベルリンに留学。ドイツ・ケムニッツ市立劇場「魔笛」パパゲーノで欧州デビュー後、同劇場「ヘンゼルとグレーテル」「ウィンザーの陽気な女房たち」、ドイツ・ザクセン州立劇場「蝶々夫人」、ドイツ・ラインスベルク音楽祭、スウェーデン・ヴァドステーナ音楽祭、日本でも新国立劇場「運命の力」「トスカ」「ルル」「ばらの騎士」「フィガロの結婚」「ラ・ボエーム」「ニュルンベルクのマイスタージンガー」等、全国の主要な劇場で活躍。チョン・ミョンフン、ペーター・シュナイダー、ダン・エッティンガー、ウルフ・シルマー等著名な指揮者や、ロシア・レニングラード国立歌劇場管弦楽団と共演等コンサートでも活躍。「題名のない音楽会」等に出演。咲くやこの花賞、大阪文化祭賞奨励賞、兵庫県芸術奨励賞受賞。

2013年2月東京芸術劇場「カルメン」、3月兵庫県立芸術文化センター「夕鶴」、6月新国立劇場「夜叉が池」、9月愛知県芸術劇場「蝶々夫人」



歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」Dr. カイウス役(ドイツ・ケムニッツ市立劇場・1998年6月)
歌劇「蝶々夫人」ゴロー役(ドイツ・ザクセン州立劇場・1999年9月)



創立100周年記念プロジェクト 20世紀オペラ・シリーズ カルロ・ゴルドーニ原作 E.ヴォルフ＝フェッラーリ作曲

人間味溢れるイタリア庶民派オペラ

「イル・カンピエッロ」

指揮者・演出家・原語指導の3人が語る見どころ聴きどころ

言葉のおもしろさを味わってください



指揮
大勝 秀也

一言で言えば、「庶民的なオペラ」。イタリアの田舎でよくある風景の中で、ありがちな物語が展開します。音楽的にも一度聴いたら口ずさめるほどのメロディに、突飛なことが一つもないオーケストレーション……随所に古きイタリアの旋律感が散りばめられています。それでいて、当時の作曲者の周りの音楽の要素も巧みに取り入れられ、上質で新たな世界をも目指しています。そして、言葉のおもしろさ。主に使われるヴェネツィア語は、一般的なイタリア語とはかなり違います。今回は、方言指導の専門家についてもらい、徹底的にやっています。歌手同士のアンサンブルも、とても大変。これほど早い時期に稽古を始めたことはないほどで、今回は気合が違いますね。若手とベテランが、とてもいい相乗効果を起こしています。特に、「おばさん」を演じるテナーの2人は、もうノリノリで……(笑)。

一方で、指揮者にとって、これは「一番難しい作品」かもしれません。全編にわたって、レチタティーヴォにオーケストラを付けてゆくようなケースが多いのですが、効果音的なこともあれば、ある場面の心情を示す場合もある。一瞬でもタイミングが遅れば、別の意味合いになってしまうことも。気が抜けません。そんな指揮者の苦労を聴衆は気づかないかもしれませんが、もしそれを怠れば、退屈になってしまう。無意識に音楽が聴衆の心の中に入り込んで、何かを残してくれる。オーケストラ自体も、キャストの1人のような気持ちで、臨んでいます。(インタビュー・文 寺西 肇)

皆さんも「カンピエッロ」の住人に！



演出
栗國 淳

18世紀の江戸の長屋の井戸端会議が海を渡ってイタリアはヴェネツィアにやってきた。それが『イル・カンピエッロ』です！ 井戸のある小さな広場を囲んだアバルタメントの窓越しに、住民たちの喜怒哀楽、人間味溢れる生活の一端が展開されてゆく。喧嘩あり、恋あり、人には言えない事情ありの、原作者ゴルドーニの人間と社会を見つめる確固たる眼差しに、E.ヴォルフ＝フェッラーリの音楽が珠玉の美しさとユーモアで物語りを音語ります。時に悲哀を帯びて僕たちの心をギュッと掴むかと思うと、ある時はイタリアの 青空のような陽気さで、そしてヴェネツィアの夕陽のような美しさで。テノール2人が歌い演じる、生々しいイタリアのママン(おっかさん)も見どころ聴きどころです。さあ皆さんもカンピエッロの住人になって井戸端会議へ！！

関西の方ならきっと分かります

原語指導 本谷 麻子

公演のチラシはご覧になりましたか？ オペラは、当時のヴェネツィア共和国の公用語「ヴェネツィア語」による上演です。ヴェネツィアは、現在でも「バイリンガル率」の高い街です。公の場では「イタリア語」(でも、イントネーションで出身地はバレバレ)、家族や友人の間では「ヴェネツィア語」。この感覚、関西の方ならきっとわかるのでは？ 「イル・カンピエッロ」は、地元トークと、地元トークに入れない人たちの喜劇でもあるのです。

2年ぶりに復活する大勝秀也と栗國淳コンビに注目！
2012年秋、大阪音楽大学が創立100周年記念プロジェクトとして「20世紀オペラ・シリーズ」でお贈りするものがE.ヴォルフ＝フェッラーリ作曲のオペラ「イル・カンピエッロ」。指揮にはザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団正指揮者である大勝秀也氏、演出には2010年恋人たちの学校(ゴジファン・トゥッテ)の記憶も新しい栗國淳氏を迎えます。関西初演となるこの作品。ぜひ注目ください。

あらすじ

舞台はヴェネツィア。ナポリの騎士アストルフィが当地を訪れることによって、「イル・カンピエッロ」(「小広場」の意)を囲む家々に一悶着が巻き起こります。恋あり喧嘩ありの大騒動の結末はいったいどうなる……？

キャスト



ガスバリーナ
(田邊 織恵)



ドナ・カーテ
(橋本 恵史)



ルシエータ
(尾崎 比佐子)



ドナ・バスクア
(清原 邦仁)



ニューゼ
(内藤 里美)



オルソラ
(西原 綾子)



ゾルゼート
(松本 薫平)



アンソレート
(西村 圭市)



アストルフィ
(晴 雅彦)



ファブリーツィオ
(山川 大樹)

合唱
ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団
管弦楽
ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

●会場 ザ・カレッジ・オペラハウス
指揮:大勝 秀也 演出:栗國 淳
制作統括:荒田 祐子

オペラ・プレトーク
オペラ「イル・カンピエッロ」の見どころ、聴きどころ(入場無料)
●日時 10月20日(土)14:00~15:00(13:30開場)
●会場 ザ・カレッジ・オペラハウス1Fロビー
●プレゼンター 大勝 秀也、栗國 淳、荒田 祐子

●お申し込み・お問い合わせ
大阪音楽大学コンサート・センター
06-6334-2242 http://daion.ac.jp

Information

第49回オペラ公演
ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第49回定期演奏会
20世紀オペラ・シリーズ
E.ヴォルフ＝フェッラーリ作曲
「イル・カンピエッロ」(ヴェネツィアの「小広場」)
全3幕 原語(ヴェネツィア語・イタリア語)上演・字幕付
●公演日
10月26日(金)18:00開演(17:00開場)
10月28日(日)14:00開演(13:00開場)
●入場料(全席指定)
一般7000円、シルバー(65歳以上)6000円、
小・中・高校生3000円
※幸楽会・付属音楽院会員はシルバー料金と同額



大音声楽NEWS

関西の大学では初！ 新国立劇場との協定を締結



◀右が公益財団法人新国立劇場運営財団の福地茂雄理事長、左は本学中村孝義理事長

学校法人大阪音楽大学は、公益財団法人新国立劇場運営財団と、新国立劇場での公演・人材交流・人材育成などについて連携・協力を推進することとし、協定を締結しました。国籍にとらわれず芸術的な質の確保を第一義に置いてキャスティングを行っている新国立劇場でも、本学が輩出した人材はこれまでたびたび登用され、重要な役割を演じてきました。現在新国立劇場では、日本人の出演機会を増やすことが重要な課題とされており、そのために各大学との協力関係を構築する施策が進められています。

すでに東京藝術大学、武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学との間で本件と同趣旨の協定を締結していますが、このたびは東京以外の大学として初めて協定を締結することになりました。

去る7月20日、本学の中村孝義理事長と武藤好男学長が新国立劇場を訪れ、学校法人大阪音楽大学を代表して中村孝義理事長が、公益財団法人新国立劇場運営財団を代表して福地茂雄理事長が協定書にサインしました。

新国立劇場
(東京都渋谷区
本町1丁目1番
1号)の外観(左)
と内観(右)

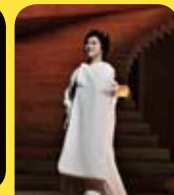


大音関係者多数出演中

これまで新国立劇場に登場した本学関係者は、今回対談していただいた晴准教授、並河准教授をはじめ、石橋栄助助教、小餅谷哲男講師ほか松位浩さん(ザールラント州立歌劇場首席バス歌手:本学客員教授)、中村恵理さん(バイエルン州立歌劇場専属歌手・P6に掲載)、竹本節子さん(東京二期会所属、本学客員教授)、重松みかさん(本学客員教授)、榎貴志さん、そして公演舞台監督として活躍中の斉藤美穂さんなど多数。またオペラ研修所修了生には、中川正崇さん、木村真理子さん、西村圭市さんがいます。



▲新国立劇場オペラ「ルル」
(2005年公演・晴雅彦准教授)



◀高校生のためのオペラ鑑賞教室関西公演「蝶々夫人」
(2010年公演・並河寿美准教授)

「オペラを大阪で学ぶ意味について
どう考えますか？」
晴 関西人は自分を落としても人

関西人は
世界基準の
エンターテイナー！

を笑わせたいという気質を持っているでしょう。お客さんを楽しませないといけない、という使命感が体に染み付いていますよね。
並河 お客さんに納得してもらわなければプロじゃありませんからね。
晴 「お金を払ってよかった」と満足感を与えることができて、初めてプロの歌手と認められるわけですから。
並河 東京の友達に言われたことがあるんですけど、本番で「ゲネプロ以

上のことをやる」のが関西人ですって。舞台の上で、練習の時よりもっと楽しくおもしろくしてしまおうのは、もう関西人の血ですよね。
晴 ある意味日本人っぽくないというか、海外でやっていけるようなエンターテインメント性を持っていますよね。
並河 だから大阪で声楽の勉強をすれば、即世界に通じると言えるわけですね。



音楽を学んだからこそ 世界の人たちと感動を 共有できるのです



(C) Chris Gloag

素晴らしい先生に
出会えたこと
大音に入って
本当に良かった

子供の頃から好奇心旺盛。習い事をたくさんさせてくれた母のおかげで、幼稚園の頃からピアノを習っていました。練習はあまり好きではありませんでしたが、音楽は大好き。吹奏楽部では中学でトロンボーン、高校でコントラバスを演奏し、音楽を

始めたのは高校2年の終わり。当時、阪神大震災の影響でピアノの練習が滞っていました。また、高校で「マベート・ヴェンの第九に合唱で参加した際に、高音が出ると気づいたのもこの頃。当時習っていたピアノの先生に相談して、声楽専攻を志すことにしたのです。

教えていただいていた先生が大音出身だったこと、家から通えることなどから大阪音楽大学を受験。入学後はなぜかアルバイトばかりしてい

て、授業の時間以外はファストフードや語学学校の受付などさまざまな場所で働いていました。オペラが好きになったのは、大学院に入ってからです。

在学中二人の先生の下で勉強していました。オペラを志すように熱心に導いてくださった上木惇先生、ご退任後も折に触れ温かく声をかけてくださった油井成行先生という本当に素晴らしい先生方に出会えて、大音に通って良かったと思っています。また、オペラハウスがある大学に通えたことは、声楽専攻の学生として良いモチベーションになりました。大学院の頃、ちょうどミレニアムホールが完成し、新しい施設を使えたこともありがたかったです。

「この人たちと歌いたい」という思いがプロを目指すきっかけでした

音楽を学んで良かったと思うのは、世界中の人たちとコミュニケーション、もっと言えば感動を共有できるところ。音楽がなければ、イギリスやドイツに住む人生はなかったでしょう。

プロのオペラ歌手を意識して目指すようになったのは、新国立劇場のデビュー後。初めて外国人キャス

トや指揮者、演出家と共演し、「この人たちと歌えるようになりたい」と思ったのがきっかけです。それまでは、「ただ」歌がうまくなりたい」という一心でした。

私がこうして今海外で活動できるのも、キャリアの節目に正しく導いてくださった方たちがいて、私の素直で頑固な性格が、その時々によく機能したからだと思います。例えば、新国立劇場の研修所を薦めてくださった晴雅彦先生（当時は大学院教育助手）。当時、大音からはまだ新国の研修所には誰も行っていなかったで、自分も周りも入るのは難しいと思っていたのですが、晴先生だけは私のことを本当に信じてくださいました。その後、同劇場の「フィガロの結婚」でアントニオとバルバリーナという親子役でデビュー。あれから10年近く経ちましたが、今でも大切な思い出の一つです。

「好き」とか「知りたい」と思ったことは躊躇せず
まずやってみることに

現在はかなり忙しい毎日を送っています。先週は3演目5公演に加え、ほかの作品の稽古もあり、これまでに一番忙しい一週間でした。今年9月14日に東京・紀尾井ホール主

中村 恵理

オペラ歌手(バイエルン州立歌劇場専属ソリスト)

催のリサイタルで帰国。その後、エストニア国立管弦楽団とM・ラヴェル「シェエラザード」、スペイン・オルビエドで「トゥーランドット」に出演し、バイエルンの「ヘンゼルとグレーテル」で大野和士氏と初共演します。来年は「ボリス・ゴドゥノフ」で初めてロシア語の作品を歌うほか、「愛の妙薬」「ロミオとジュリエット」で新しい役に挑戦。ロイヤルオペラにも再登場する予定です。

しばらくは長期的に日本に戻る予定はないのですが、いつか私の経験が役に立つのであれば、オーディションの受け方や海外のオペラ界へのガイダンスになるようなワークショップができればと考えています。

現在、将来の進路について考えている学生の方も多いと思います。自分が「好き」とか「知りたい」と思ったことは躊躇せず、まずやってみること。私は、全く興味がなかったのに大音でオペラに出会い、オペラ歌手になりました。知り合いの方には、管楽器を演奏していたのに、オペラのピットに入っていた際、舞台メイクに興味を持って、その道に進んだ方もいます。音楽を通じてたくさんの人と出会い、自分なりの価値観を見出してほしいと思います。私もこれから、さらに一層努力していきたいと思っています。



▶「ラ・ボエーム」(ムゼッタ役)英国ロイヤルオペラハウスにて

◀「カブレーティ家とモンテッキ家」(ジュリエッタ役)バイエルン州立歌劇場プレミアにて



(C) Chris Gloag

●なかむら えり
大阪音楽大学大学院 音楽研究科 オペラ研究室修了。新国立劇場オペラ研究所第5期生修了。上木惇、油井成行、セルジョ・ベルトッキの各氏に師事。08年英国・ロイヤルオペラハウスの研修生として「エレクトラ」で同劇場にデビュー。ドイツを中心に欧米各国でオペラ作品に出演中。

半世紀以上生きてきて 改めて思います 「大音時代が一番楽しかった！」

大阪万博での演奏経験が 一生を決める体験に

京都橘高校には前任者で現全日本吹奏楽連盟の平松久司理事長が退任される時に赴任してきました。平松先生時代から、この学校では生徒が自主的に動いているのが特徴です。僕はそれを受け継ぎ、もし生徒たちが間違った方向へ行きそうになった場合だけ軌道修正するという役目を受け持ちます。

今、生徒たち（京都橘高校吹奏楽部）のひたすら血のにじむような練

の経験が「一生続けていこう」と、その後の人生を決めた大きな出来事となりました。当時の万博の映像が時々テレビで流れますが、開会式でパレードと風船が上がる中で、赤いユニフォームを着てロボットに乗ってファンファーレ吹いてる子ども、あれが僕です。

とにかく仲間恵まれた 大音時代

大学に入ってから初めて同じ志を持つ学生同士の切磋琢磨を経験しました。レッスンや授業以外に「吹奏楽研究会」を作って思い切り活動していました。吹研では外部のコンサートホールで演奏会もしました。大学祭では毎年焼き鳥屋をしていて、そのために幼稚園にテントを借りないといけなかったんですが、そのお札に幼稚園の運動会で演奏してあげたりしていました。ひたすら「トランペット吹きの日」をリピート。これが結構きついです。演奏会の打ち上げはそれこそドンチャン騒ぎ。電車がなくなつて近所に下宿してる仲間の家におしかけていましたね（笑）。もちろん辛いこともあったんですけど、楽しかったことしか思い出せません。本当に充実していた。半世紀以上生きてきましたが、一番楽し

習をしている姿を見てみると、なんだか悪い気がします。だって自分自身の高校生活は音楽で勝負するなんてことには全く無縁の、非常にゆとりがあったりとした時代だったから。僕の通っていた中学にも高校にも吹奏楽部はなかったんです。それが入ったのがリコーダー部。人数もそんなにいないからのんびりしたものでした。音楽準備室で先生や仲間とワイワイガヤガヤ過ごしていました。男子は先生が飲むコーヒーマーの豆を挽かされたりなんかしてね（笑）。でもあの時の経験が、むしろ今に役立つ

かった4年間ですね。もしどの時代に戻りたい？ って聞かれたら絶対に「大音時代」って言い切れます。

今、生徒たちに「これだけ苦楽を共にした仲間は一生もんやぞ」とよく言っていますが、それは自分自身の学生時代の経験からです。とにかく仲間恵まれたのが大きかった。

自分の演奏経験を語る 教師に

教師になろうと決意したのは大学で教育実習へ行つた時の体験から。ピアノは苦手だったから、トランペットで伴奏して生徒に校歌を歌わせました。それが生徒たちにすごくウケたんです。担当の先生にもとても褒めてもらいましたね。生徒の中に積極的に入ってとても仲良くなれたし、授業も落ち着いてできました。その時の先生から助言された「成り行き任せではなく『どんな生徒に育てたいか』という意思を持つて生徒に接すること」という言葉は、今でも大切に心にとめています。

現在はマーチングコンテストで全日本大会に出場させてもらうようになり、改めて吹奏楽関係の大音出身者が多いことに驚いています。外部の会場に行ったりすると、もう知り

ているという感じがします。あの時に「本当の音楽」というものを教えてもらったというか。

トランペットを始めたのは10歳の時。僕の通っていた池田の呉服小学校には当時日本一の吹奏楽団があつて。そこで菌並びと体型だけで先生にラッパにあてがわれたという、それだけの理由です（笑）。それが縁で音大まで入ったんだからよほど好きだったんでしょうね。小学生の時、大阪万博の会場で何度も演奏させてもらったんですよ。忘れられない素晴らしい経験になりましたね。こ

合いだらけ。他校と交流演奏会をしたり、情報交換もさかんに行っています。それがまたいい刺激になるんですね。「あいつも頑張ってるから俺も頑張ろう」って。大音を出て教師になった人たちはもう既に人脈を持つて乗り込んでいってるみたいなのだから、指導者という立場になつても非常に心強いと思います。

僕が今こうやって教師として指導できるのは、大音時代の豊富な演奏経験のおかげ。自分が体験してきたことは、生徒たちにも自信を持って語ることができます。貴重な学生時代の演奏体験は一生の宝物になるはずですよ。

田中 宏幸

京都橘高等学校教諭・吹奏楽部顧問



●たなか ひろゆき
1982年3月大阪音楽大学音楽学部器楽学科卒業。トランペットを故斎藤広義、故加藤隆功の両氏に師事。大阪府の公立中学校勤務の後、1995年より京都橘（当時は女子）高等学校教諭、同校吹奏楽部顧問。

京都橘高等学校吹奏楽部

全日本マーチングコンテスト常連校。近年では07年より3年連続出場（08、09年は金賞受賞）。規定により3年連続出場の翌年の10年は欠場となったが、11年全国大会に出場して銀賞を獲得している。



▶勤務する京都橘高校の校内に貼られている吹奏楽部の活動を紹介するポスター

◀吹奏楽部が受賞した賞状やトロフィーの数々



★祝！コンクール受賞

各種コンクールで受賞された皆さんの喜びの声をご紹介します

第49回 なにわ芸術祭

新人賞選出 新進音楽家競演会 声楽

新人賞・大阪府知事賞・大阪市長賞・大阪製紙賞
2012年4月20日(サンケイホールブリーゼ)

この賞がいただけたのは、私の恩人でもあり、声楽の先生でもある林誠先生と家族のおかげだと思っております。これからは、この受賞に満足することなく、これまで以上に精進していくつもりです。

平成24年度 奏楽堂 日本歌曲コンクール

歌唱 第3位

2012年5月27日(旧東京音楽学校奏楽堂)

受賞できたのもずっと支えてくれた伴奏者、そしてご指導頂いた高須先生のおかげです。このコンクールを通して、日本歌曲の奥深さを改めて実感しました。まだまだ未熟者ですが、これからも貪欲にいろいろなことに挑戦していきたいです。

矢野 勇志
(11年大専修・声楽)藤原 未佳子
(07年院修・声楽)

第28回 愛知ピアノコンクール

課題曲連弾F 銀賞 2012年5月3日(リリオ・コンサートホール)

第29回 アジア国際音楽コンサートオーディション

アンサンブル 優秀賞 2012年5月27日(ザ・フェニックスホール)

桃谷 江美(04年大卒・ピアノ)

愛知ピアノコンクールでは、舞台で初めて弾く曲でしたが、お互いの音色を聴きながら集中して演奏することができました。アジア国際音楽コンサートオーディションでは、ザ・フェニックスホールのような素晴らしいホールで演奏でき、大変嬉しく思います。

奥出 容子(03年短専修・ピアノ)

今回受けたコンクールは同時期に重なってしまい準備が大変でした。しかし、この状況乗り越えたことが自分たちの成長につながったと思います。これからも音楽と真摯に向き合っていきたいです。



Topics 世界で活躍する卒業生

NYを拠点に活躍中のオルガニスト

敦賀 明子さん(88年短卒・音楽専攻)

卒業後、ジャズピアニストとして活動を始め、その後ハモンドオルガンに出会った敦賀さんは、01年ニューヨークに拠点を移します。飛び入りしたハーレムのジャズクラブ「Showman's」で演奏の依頼を受けたことからアメリカでの活動をスタート。7月にはシカゴ、8月はサンフランシスコ、ニューヨーク州バッファローのジャズフェスティバル、秋にはNYのブルーノートで演奏予定。

「尊敬するオルガニストのDr. Lonnie Smithの言葉『人生を音で表現する』。心を込めて想いを込めた演奏は、必ず人の心に伝わります。学生の皆さん、自分を信じて心の思うままに音を表現してください」

[Sakura]
発売中:1995円
(American Showplace)
アマゾンで販売中

アポロシアターで熱唱！ 参河 智嘉さん(10年短卒・ポピュラー)

今年3月、ニューヨークにいるアメリカ人のヴォーカルコーチから「東日本大震災のチャリティライブをするからぜひ出演してほしい」とご依頼をいただき、それに合わせて渡米しました。後日、またコーチからマイケル・ジャクソンやその他偉大なアーティストを数多く生み出したことで有名なアポロシアターで行われている、アマチュアナイトに出演するためのオーディションを薦められ、参加することに。数百人の多国籍の人たちが参加する中、数人しか選ばれないという狭き門でしたが見事合格！

▶コーチのビバリー・スミス先生と

本戦では結果を残すことはできませんでしたが、とても貴重な経験をされた参河さん。

「今夏、再度渡米します。語学学校に通いながら、さまざまなミュージシャンと一緒に演奏する予定。とても楽しみです」

世界13カ国からのメンバーとツアー

岸本 正史さん(02年院修・声楽)

今年5月にアメリカで博士号(合唱指揮)を取得し帰国。そして7月1日より、マレーシアの首都クアラルンプールで、世界中から声楽家を集めて行われるTime Ensembleの約2週間のツアーに参加した岸本さん。ユネスコの平和親善大使でもあるワールドユース合唱団で構成されるメンバーは、世界13カ国から参加した16名。昨年のヨーロッパツアーに引き続き、マレーシアとシンガポールでツアーを行いました。「両国とも合唱は盛んで、国際的なコンクールで入賞する団体もありますが、プロの演奏を聴く機会は少ないそうです。今回は現地の学校を回りワークショップも行いました。マレーシアでは約1000枚のチケットが全日完売。シンガポールでは旧国会議事堂で演奏する機会にも恵まれ、現地の合唱団の方も来てくださり、1曲ごとに客席から見える笑顔がとても嬉しかったです。合唱はコンクールで競うためのものではなく、歌を通していろいろな経験をし、何かを学べる貴重な場であると改めて実感しました。次回は南米ベネズエラ公演、来年夏は日本公演も計画しています。いろいろな国の人と出会い異文化に触れ、とても貴重な2週間でした」



★NEWリリース

大音関係者がリリースしたCD・本・楽譜などをご紹介します



竹中 睦(音楽院講師)

「セツナの真実」

7月4日発売:1500円

全国のタワレコード、HMV、アマゾン他

新刊



八田 惇(翻訳・校閲)(教授)

「ショパン」遺作集「アルフレッドコルトー版」

(全音楽譜出版社)

発売中:3000円(税抜)

全国の楽譜販売店、アマゾン他

新刊



衣川久美子(79年大卒・声楽)

古庵品子(90年大専修・ピアノ)

他(共編著)

「どんな表現もOK なるほど！

大人のブルグミュラー 25」

発売中:1890円(サーベル社)

全国の書店・楽器店、アマゾン他ネットショップでも販売

豊かな表現を目指して、各曲を「表現・譜読み・弾き方」の3本柱で学習します。知識習得のためのページも適宜挿入しました。主に教員養成校の学生さんと成人学習者の方々に使っていたいただきたく、ゆくりしたテンポのCDを添付しています。「なるほど！バイエル1・2」に続く一冊として、多くの方々に使っていただくことを願っています。

Tutti制作現場風景



まずは人集めから

キャストやスタッフの募集チラシの作成も私の大切な仕事。今後はチケットやポスターも作る予定。



地道な練習あるのみ

ある日の稽古の様子。指揮者から指導を受けながら夜遅くまで何度も何度も繰り返し練習します。



厳しい指導が続きます

7月より始まった立ち稽古。台本や楽譜を手に、真剣な表情。動きを合わせる難しさを痛感。



なんでも引き受けます

人手が足りない時は「譜めくり」も。オペラを作る過程で発生する必要ならやることを行います。



生演奏が最大の醍醐味！

8月17日よりオーケストラ練習開始。指揮者や演出との打ち合わせにも立ち会います。



打ち合わせも大切な仕事

休憩時にはスタッフで集まって話し合いをします。決めないといけないことは次から次へと出てきます。

私のリアル

今は全情熱をTuttiに

大学はとにかく単位を取るのが大変！ レッスンや授業を受け、発表会やコンサートに出たり、何かと忙しい毎日です。歌を歌っているわりには、実は人前になるのが苦手。普段は家にいることが好きで、練習の合間には気分転換にゲームをしたりもします。4年間の大学生活ももうすぐ終わり。社会人になっても、少しずつでも必ず音楽を続けていきたい！ と心に決めています。

実は6月まで就職活動をしていました。なんとか内定をいただくことができたので、今はTuttiの活動に全情熱を注いでいます。



キャスト

アイゼンシュタイン
鹿岡 晃紀アイゼンシュタイン
谷口 耕平ロザリンデ
市川 由佳莉ロザリンデ
山田 恵ロザリンデ
八谷 早紀アデーレ
斉戸 英美子アデーレ
野々村 瞳フランク
浦野 大毅アルフレード
岡田 淳志イーダ
橘 ひとみオルロフスキー
松田 香奈子プリント
近藤 勇斗ファルケ
伊藤 友祐フロッシュ
中野 文哉メイド
下永 沙菜美メイド
青田 瑠花ゲスト
半林 知里ナビゲーター
Tutti制作担当
大4・声楽
楠本 梨紗さん

大音生リアル ③

大音生のライフスタイルなどありのままをご紹介します。

Tutti 編

「オペラがとにかく好き！」という人が集まって学生だけで作り上げるオペラ。それがTuttiです。制作から資金集めまで、すべてを学生の手で作り上げるために、学生生活を賭けて頑張っている楠本さんにスポットを当て、Tuttiをご紹介します。

昨

年、初めてTuttiに参加しました。きっかけは、合唱メンバーの募集を知って興味を持ったこと。学生だけで作り上げるオペラに魅力を感じ、ぜひ今年も参加したいと思っていました。どちらかというと表舞台に立つより、裏方として関わりたいという性格の私。裏方である「制作」を担当することになったのですが、仕事は実にたくさんあり、多種多様です。苦勞も絶えませんが、日に日にできあがっていく舞台を見てると充実感があるし、これから本番の日を迎える楽しみは計り知れません。

こうして「Tutti」は始まった！

1981年、大学4年生の時にTuttiオペラの立ち上げ公演に参加しました。僕らの学年は特にオペラ好きが集まっていて、大学1年の秋から関西歌劇団の公演(当時は朝比奈隆先生指揮、大阪フィルハーモニー交響楽団が演奏)に合唱で参加、2000人を上回るお客様の前で舞台経験をjする機会にも恵まれました。ですから、自然発生的に、オーケストラと一緒にオペラ公演をやりたいと仲間内から声があがっていました。

ところが、熱い思いを大学に掛け合っても「無理だ」と言われるばかり。それならばと、交流の少なかった音楽専攻、管弦打専攻の学生が声を掛け合って集結、「オケ伴」のオペラをやってみよう！ と始めたのがTuttiオペラです。募金活動から衣装、大道具、照明まですべて自分たちの手作りで、G.ドニゼッティの「愛の妙薬」を公演しました。本当に何もかも手探りでしたが、学生でもプロと演奏する機会の多かった時代。なんとか「本物」に近づきたい！ という情熱で公演にこぎ着けることができ、最高に素晴らしい思い出となっています。音楽博物館 大槻 晴彦(第1回Tuttiオペラ 舞台担当)

▶みんなの情熱で実現した、第1回公演



Tuttiからのお知らせ

J.シュトラウスⅡ世作曲「こうもり」

2012年11月18日(日)17:00開演予定(16:30開場)

【場所】ザ・カレッジ・オペラハウス 入場無料(要整理券)

【申込み方法】11/1(木)までに〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8 大阪音楽大学コンサート・センター「Tutti」係宛てに往復はがきをお送りください。折り返し11/9(金)までに当落の結果をお送りします。往復はがき1通につき整理券1枚とします。

【お問い合わせ】090-6062-0398 またはrisa.0814@softbank.ne.jp (楠本)まで



奨学制度 給付奨学金 給付決定 通知書授与式

2012年度大阪音楽大学奨学制度
給付奨学金の給付決定通知書授与式が
6月7日(木)に
F号館214教
室にて行われ
ました。この制
度の学生の皆
さんの積極的
な勉学を奨励
し、優れた学
業成果を称賛
するものです。

大学

- 奨学金 A 岡本 珠希(2年・管楽器)、佐藤 亜衣(3年・ピアノ)、伏見 千紗都(4年・ピアノ)
同 B 岡田 淳志(2年・声楽)、池田 佑香(2年・ピアノ)、菱田 麻耶(4年・作曲)、山下 麻美(4年・管楽器)
同 C 堀 志帆(2年・音楽学)、高田 瞳、西田 晴香(以上2年・ピアノ)、植田 絵梨(2年・管楽器)、梶 愛未、高山 理帆、横田 知佳、八塚 真秀(以上3年・ピアノ)、内藤 リリコ(4年・声楽)、清水 笙子、野村 美幸(以上4年・ピアノ)、長野 有花子(4年・管楽器)

短大

- 奨学金 A 田村 美世子(2年・声楽)
同 C 下条 侑子、宮地 奈々子(以上2年・声楽)、野中 千尋(2年・電子オルガン)

専攻科

- 西 恵里夏(大学・ピアノ)、河原 結花(大学・弦楽器)、妹脊 加奈(短大・電子オルガン)

大学院

- 杉山 惠梨(1年・音楽学)、根本 みずき(1年・ピアノ)、中原 美幸(2年・オペラ)、農頭 奈緒(2年・弦楽器)、林 佑子(2年・オペラ)

国内海外音楽講座

- 山下 美緒、前富 秀介(以上大4・管楽器)、吉田 純音(大専・ピアノ)

海外提携校留学

- 由利 友樹子(大3・管楽器) ※給付金額等詳細はHPをご覧ください。



護身術を伝授 防犯講習会開催

6月28日、主に豊南寮入寮者を対象に防犯講習を実施しました。当日は、豊中警察署生活安全課防犯係より5人の指導者の方が来校。ひったくりや痴漢など、実際に不審者が近づいてきた

ことを想定した護身術を実地で伝授していただきました。参加した25人の学生も、直接指導を受けながら犯人役を交代で演じて訓練。いざという時に役立つ、有意義な講習会となりました。



▲実演を交えての指導



いつもの「大音」のぞきにきませんか？ 秋のオープンキャンパス

今秋も大阪音楽大学の魅力をたっぷり体験していただける「秋のオープンキャンパス」を行います。今回の特徴は「いつもの授業をじっくり見学できる」こと。開催される10月8日は祝日ですが、大学では通常授業を行っています。そんな日も同じ大学の様子をその

まま体験していただくという趣旨。ひと足早く大阪音楽大学の学生になった気分です。ぜひオープンキャンパスの雰囲気に触れてみてください。ザ・カレッジ・オペラハウスでのコンサートや寮見学ツアーも実施予定。詳しくは大学HPをご覧ください。



▲この秋もぜひ大音へ！



一般の方も入場可 平田オリザさん講演会

劇作家・演出家の平田オリザさんが本学で講演会を行います。大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授、四国学院大学客員教授、学長特別補佐、劇団「青年団」主宰、こまばアゴラ劇場芸術監督も務め、1995年『東京ノート』で第39回岸田國士戯曲賞、2003年『その河をこえて』、五月で第2回朝日舞台芸術賞グランプリを受賞。本学では「新しい広場を作る」社会における芸術の役割」をテーマに語つ

ていただきます。
日時：10月31日(水)18時～19時30分
会場：ミレニアムホール
入場料：無料(整理券が必要)
電話：06(6334)2131(代)
(連携支援センター)
これは、豊中市が今秋から行う「となか音楽月間」の一環として行われます。本学も演奏会やワークショップなどさまざまな形で参加予定です。



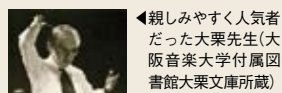
撮影：青木 司

図書館活用術 vol.03

「大栗文庫」をザ・カレッジ・オペラハウスに展示します

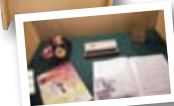
現在A号館玄関ロビーに展示している「大栗文庫」をご存知ですか？ 関西交響楽団(現・大阪フィルハーモニー交響楽団)のホルン奏者から作曲家へ転じた大栗裕先生(1918～1982年)の自筆譜など、遺品資料を本学が保存しているもの。大栗先生は歌劇7作、管弦楽・吹奏楽・マンドリンオーケストラ・放送音楽など多岐に渡る創作活動の傍ら、本学では1954年7月から他界の年まで、ホルンや管弦楽法の講師として後進の指導にあたりました。

遺品資料は大栗氏夫人から正式に学校法人大阪音楽大学へ寄贈され、「大阪音楽大学付属図書館大栗文庫」として公開します。10月からはザ・カレッジ・オペラハウスのロビーにて常設展示する予定。詳しい資料目録等は大阪音楽大学HP「図書館」のページをご覧ください。大栗先生をご存知の方もそうでない方も、ぜひその素晴らしい作品や足跡に触れてみてください。



▲親しみやすく人気者だった大栗先生(大阪音楽大学付属図書館大栗文庫所蔵)

▶田嶋記念大学図書館振興財団より助成を受け導入した「大栗文庫」展示ケース



研究室訪問

普段はなかなか入ることのできない先生の研究室におじゃまして！

今回お訪ねしたのは……

福榮 宏之准教授
(担当科目「ポピュラー・インストルメント」[バンド・パフォーマンス]「ステージ・パフォーマンス研究」[作曲法I (ポピュラー)]「ポピュラー音楽演習」[大音コミュニケーション入門]「フィールド・スタディ」)

音楽の知識と演奏、作・編曲 これらが僕を支えてくれています

ここはもともと音響の実験室だったそうです。3年前、専任になったのをきっかけに、研究室として使わせていただくことになりました。実はこのパソコンの向こう側はガラスになっていて、その奥にブースがあります。隣が録音室なので、そのスタジオの一つが見えている状態です。僕自身は使っていないのですが、構造上そうなったということで、ちょっと不思議な部屋ですね(笑)。

高校時代から軽音楽をやりたいと思っていたのですが、僕の通っていた高校には軽音楽部がなく、仕方なくマンドリン部に入り、ギター、コントラバス、指揮を受け持ちました。大学に入って念願だったバンド活動を開始。それから音楽一筋で現在までできてしまったという感じです。在学中からあちらこちらで演奏の仕事をお願いするようになり、卒業後もフリーでレコーディングやコンサート、作・編曲、そして指導などの音楽活動をしてきました。

僕がこうして長年音楽で食べていけるのも、専門楽器であるベースだけでなく、ほかの楽器についての知識や興味があること、楽譜が読めること、作・編曲も手掛けるなど幅広く音楽を勉強してきたからかもしれません。大学時代は音楽の勉強に集中できる貴重なとき。同じ志を持った仲間たちと、大阪音楽大学という恵まれた環境を存分に利用して、悔いなく過ごしてください。

▲研究室に鎮座する「かなり年代もの」のRolandのベースアンプとバックスの5弦ベース

Daion Report ～海外見聞録～

学生が見た！聞いた！海外体験をお送りします。

中西 ひかるさん(大4・ピアノ)

「音楽を楽しむこと」を教えてくれた留学体験

今年4月から約3ヵ月間、イギリスへ留学しました。幼い頃カナダに暮らした経験があり、必ずまた海外へ渡り勉強したいという思いがあったからです。

まず驚いたのは留学先の王立ウェールズ音楽演劇大学のピアノ科生はとても少なく、一学年につき10～15人だったこと。おのずと他学年と合同で授業を受けることとなりますが、それでも2～3週間に一度は自分の弾く順番が回ってくるため、人前で弾く頻度が格段に多いのです。しかも実技試験は「ひとり50分～1

時間のリサイクルを開く」というもの。だからでしょうか。学生が人前で弾く

▶王立ウェールズ音楽大学の練習場(アンソニーホプキンスセンター)



斎木幸子(ゆきこ)名誉教授が死去 厳しい中にも 笑顔が印象的



学生自治会長
杉山 りさ子さん
(短2・ポピュラー)

今年も11月2～4日にかけて大学祭を行います。今年のテーマは「Top Of Music」。つまり「音楽のてっぺん」!? ほかの大学には真似のできない、音楽大学ならではのイベントを企画中です。例えば大学近辺の地域の方を招待し、在学生自らがレッスンをしたり、実際に楽器に触れていただく体験。そしてファッションショーと音楽のコラボレーションなど、音楽好きな誰しもが楽しめる内容になりそうです。もちろんバラエティ豊かなコンサートや模擬店も多数予定しています。現在全力で準備をしていますので、ぜひお越しください！



斎木幸子名誉教授が8月2日、死去されました。81歳でした。斎木名誉教授は大阪府立生野高等学校音楽教諭を経て1957年より付属音楽高等学校教諭、61年より大阪音楽大学講師、71年より大阪音楽大学教授として勤務、99年に退任されるまで45年間に渡り、教育活動に従事されました。「学生にも自分にもとても厳しく、いつも本当のこじかおっしやらない。だからこそ先生の『福島さん、良かったわよ』の一言に励まされて『よし、また先生についていこう』と思って頑張ってきました。笑顔がとてもステキで、面倒見が良く、まるで母のように慕わせていただいていたました。たくさんのお学生たちに支えられた素晴らしい先生でした(福島慶子 講師談)」

キャリア支援センター

キャリア支援センターは、卒業時の就職支援をしているだけの場所だと思いませんか？ 文字通り「キャリア」を支援する場所なので、そのサポートは就職だけに限りません。新入生から卒業生まで、幅広く利用できる仕組みがたくさんあります。

大音生だからこそ、歩む道は個性的

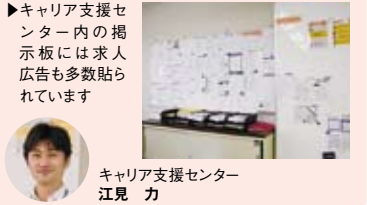
本学の在学生・卒業生の歩む道筋は個性的で、一人ひとり全く違う印象があります。プロの演奏家を目指す人、裏方として音楽を支える人、学校教員や音楽教室などの楽器講師として後進を育てている人などさまざま。また一般企業など、音楽以外の世界でも多くの卒業生が活躍しています。卒業後の姿なんてなかなかイメージできないかもしれません。ただ、「将来」は「過去」と「現在」の積み重ねです。過去は変わらないけれど、「現在」は皆さんの力で変えることができます。目の前のことにしっかり取り組み、その上で将来のことを少しずつ意識してみてはいかがでしょうか。

キャリア支援センターのスタッフは、皆さん一人ひとりの思いにしっかりと向き合って支援しています。

新入生から卒業生まで

キャリア支援センターには、そんな皆さんを応援するさまざまな仕組みがあります。演奏活動を通して社会との関わりを学ぶことができる『音楽の仕事情報館(OMSBI)』。教員を目指す方を徹底的に支援をする『教職支援室』。また、提携校への留学を希望される方には『国際交流デスク』がサポートいたします。ほかにも、一般企業就職を希望する方や音楽教室講師を目指す方など、さまざまな進路に対するセミナーや説明会、音楽現場を体験するインターンシップなど、学年問わず参加できます。

個別相談も随時対応しています。漠然としてどうしていいかわからなくても、まずはキャリア支援センターのスタッフにお声かけください。



キャリア支援センター
江見 力

編集後記

楽器を演奏しながらの一糸乱れぬ激しいステップ。初めて京都橘高校のマーチングをテレビで見た時は、あまりのスバラしさに度肝を抜かれてしまいました。率いる指導者の田中先生は本学の誇り高き卒業生。取材では音楽への熱い情熱を語ってください、ますますファンになってしまったのでした。(は)

CAMPUS
Information

学内の各部門・施設から、学生生活に役立つ情報をお届けします。

学生支援センター

専攻外でも聴講可能。講義を受講できる貴重なチャンス！

「特別講義」を聴講しよう

ポータルシステムの掲示板やH号館下の掲示で日程をお知らせしている特別講義（公開レッシンを含む）。海外からの著名な演奏家によるものなど、実は年間かなりの数の「特別講義」が学内で開かれています（ちなみに昨年は19回行われました）。

専攻・コースといったジャンルを越えて聴講していただくことも可能です（特

別な場合を除き学内のみ）。普段勉強している専攻以外の講義を間近に聴くことは大変貴重な経験となり、音楽活動の糧となることでしょう。日程は直前に決まる場合もありますので、こまめな情報チェックをオススメします。

ミニコンサートや公開レッシンなど貴重な機会をぜひ！



教務
山本 奈海

▶今年6月に行われた重松みか客員教授の特別講義の様子



連携支援センター

連携支援センターでは、主に社会人に向けての公開講座を開催しています。

ミレニアムホール特別講座
第48回『オペラも演技も超一流』

今、日本の声楽界で最も楽しい二人組。オペラからポップスまで、パフォーマンズを交えて歌います。ハレちゃん(晴)、エミちゃん(石橋)コンビにブラボー！
9月29日(土)14:00～16:00(13:30開場)
プロデュース・講師：日下部 吉彦
演奏：石橋 栄実(ソプラノ)、晴 雅彦(バリトン)、
関口 康祐(ピアノ)

お申し込み・お問い合わせ
大阪音楽大学 連携支援センター
TEL 06-6334-2249
http://daion.ac.jp
※特別講座・公開講座の項目をご覧ください。
場所：ミレニアムホール 受講料：各1000円

オペラ物知り講座

第8期は「師匠から弟子へ～伝えたいもの」～師匠の活躍に続け～
現役バリバリ・バリトンが激突
師弟でも手は抜きません
10月2日(火)18:30～20:30(18:00開場)
構成・お話：中村 敬一
師匠：田中 勉 弟子：西村 圭市
ピアノ：関口 康祐

ミレニアムホール特別講座
第49回『新しい邦楽に挑戦』

伝統の邦楽を大事にしながら、さらに新しい世界を求めている片岡リサが、ヴァイオリンの名手 赤松由夏とのコラボで、クラシック音楽の新分野に挑戦。
12月1日(土)14:00～16:00(13:30開場)
プロデュース・講師：日下部 吉彦
演奏：片岡 リサ(箏)、赤松 由夏(ヴァイオリン)、
井手 智佳子(ピアノ)

ほっと一息 学生サロン「ばうぜ」

食欲の秋においしいフェアを開催します！

この秋も魅力的なフェアをたくさん予定しています。まず9月下旬には大人気の「オムライスフェア」を実施！ トッピングとソースが日替わりで楽しめます。毎日食べても飽きない、バラエティに富んだメニューに乞うご期待！



フェア情報

10月にはたくさんの種類のきのこを豊富なメニューで味わえる「きのこフェア」、続いて11月にはおいしいものがいっぱい北海道を味わい尽くせる「北海道フェア」を予定。この秋も「ばうぜ」のランチにご注目ください！



◀サラダ、スープ付きで420円！

学校法人 大阪音楽大学広報誌『Muse』 vol.223 2012年9月14日発行
●発行：学校法人 大阪音楽大学 〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8
TEL:06-6334-2131 FAX:06-6334-2141 http://daion.ac.jp
●制作・編集：広報室 muse@daion.ac.jp
●デザイン協力：(株)産業編集センター

演奏会やオペラなど、大音関連の魅力的なイベントを紹介します。

●=出演者 ●=場所 ●=入場料 ●=問い合わせ先

大阪音楽大学主催公演

第4回 ミレニアムピアノコンサート
9/25(火)17:00～ ●木村 直美、後藤 亜紀
●MH ●無料

豊中こども音楽フェスティバル 9/29(土)14:00～
●大阪音楽大学音楽器専攻生 他 ●OH
●無料(要整理券)

ミシェル・アリニョン クラリネット・リサイタル
9/30(日)16:00～ ●OH ●2000円、小・中・高生1000円

ピアノ～華麗なる響きの宴～創立100周年記念演奏会
第一夜 コンチェルトの夕べ 10/ 3(水)18:00～
第二夜 アンサンブルの夕べ 10/ 5(金)18:00～
●第一夜 選抜学生による協奏曲演奏会／第二夜 選抜学生によるアンサンブル ●OH ●1000円

第3回 ミレニアムホール推薦コンサート
10/ 6(土)17:00～
●大阪音楽大学 卒業生による演奏会 ●MH ●1000円

第5回 ミレニアムピアノコンサート
10/11(木)17:00～
●北川 恵美、星賀 規子、小川 裕子 ●MH ●無料

クロード・ドゥラングル サクソフォーン・リサイタル
10/17(水)18:00～
●MH ●2000円、小・中・高生1000円

第34回 ミレニアム・スチューデント・コンサート
10/18 (木) (第一夜)、10/19 (金) (第二夜)、
10/22(月) (第三夜) 18:00～
●選抜学生 ●MH ●無料(要整理券)

第49回 オペラ公演 20世紀オペラ・シリーズ
「イル・カンビエロ」
10/26(金)18:00～、10/28(日)14:00～
●指揮：大膳 秀也／演出：栗園 淳／制作統括：荒田 祐子
●OH ●一般7000円、シルバーク 6000円、小・中・高生3000円

第10回 ザ・ローレル・コンサート
10/30(火)18:00～ ●2011年度大阪音楽大学
音楽学部最優秀賞受賞者 ●OH ●1000円

フィリップ・ペロー クラリネット・ミニ・リサイタル
& マスタークラス 11/ 1(木)18:00～
●MH ●1000円

大阪音楽大学大学院定期演奏会2012
11/1 (木) 18:00～ ●大阪音楽大学大学院生による演奏会 ●OH ●1000円

第35回 ミレニアム・スチューデント・コンサート
11/5 (月) (第一夜)、11/6 (火) (第二夜)、11/9 (金) (第三夜) 18:00～
●選抜学生 ●MH ●無料(要整理券)

ファブリス・モレッティ サクソフォーン・リサイタル
11/12(月)18:00～
●MH ●2000円、小・中・高生1000円

第6回 ミレニアムピアノコンサート
11/13(火)17:00～
●大竹 道哉、田中 紀子、油井 美加子 ●MH ●無料

第24回 ザ・コンチェルト・コンサート
11/15(木)18:00～
●選抜学生による協奏曲演奏会 ●OH ●1000円

第23回 ザ・カレッジ・コンサート
11/19 (月) 18:00～ ●選抜学生によるジョイント・リサイタル ●MH ●1000円

第35回 邦楽演奏会 11/30(金)18:00～
●邦楽専攻生、邦楽コース在学生、邦楽専攻教員
●MH ●1000円

大阪音楽大学 第55回 定期演奏会
12/7(金)19:00～ ●大阪音楽大学管弦楽団
●ザ・シンフォニーホール ●1000円

問い合わせ先：大阪音楽大学コンサート・センター
TEL:06-6334-2242 http://daion.ac.jp

演奏会 Information

MH= ミレニアムホール OH= ザ・カレッジ・オペラハウス
9月 12月

学生自主演奏会

Lunch ♪コンサート 9/27(木)18:00～
●岡山 ひかる、鎌田 みづき、金井 沙季、小山 愛里、笹部 真以、清家 果衣、塩谷 智栄理、角谷 夏希、武田 愛子、村田 睦 ●MH ●無料 ●090-1913-6226 (塩谷)

Message
はじめてまして、Lunch ♪10です。Lunch timeに集うピアノ仲間と演奏会をさせていただきます。ソロ、4手、8手、最後は……。楽しい演奏会にしたいと思いますので、ぜひとも皆さまお誘い合わせの上お越しください！

Tuttiオペラ J. シュトラウスⅡ世作曲「こうもり」
11/18(日)17:00～ ●OH ●無料(要整理券)
●risa.0814@softbank.ne.jp (脚本)
※P10「大音生リアル」に関連記事を掲載しています

第23回 大阪音楽大学クラリネットオーケストラ演奏会 12/18 (火) 19:00～ ●大阪音楽大学
クラリネット専攻生 ●いずみホール ●1000円
●clarinetorchestraosaka@yahoo.co.jp

大阪音楽大学後援演奏会

マンハイマー・ピアノクインテット
9/19(水)19:00～
●満洲 そよか、浦部 麻衣子、清水 英恵 他
●杉並公会堂小ホール
●3000円(当日3500円)、学生2000円
9/23(日)14:00～
●ムラマツリサイタルホール新大阪
●2500円(当日3000円)、学生2000円
●mannheimerpianoquintett@yahoo.co.jp (マンハイマー KM 企画)

出会いと絆のコンサート 9/21(金)18:30～
田中 勉、清原 千賀、澤 一考 他 ●いずみホール
●ロイヤル席8000円、一般席7000円、バルコニー席6000円、一般親子2名10000円(当日各500円増、親子席なし)
●06-6854-5848(モディス・ムジカ インターナショナル)

音と動き Six Compositions Featuring
Makoto Okatake 9/22(土)14:00～
●岡竹 信、河合 摂子、熊谷 美紀 他
●大阪市中央公会堂3F中集会所
●一般3000円、学生2000円(当日各500円増)
●090-7553-0503(音と動きプロジェクト)

Autumn Concert
～チェロとピアノが奏でる名曲の調べ～
9/22(土)14:00～
●森田 健二、立石 たから ●一音寺
●1500円(当日1800円) ●072-808-7387(武藤)

バリアフリーコンサート～ 30回記念！
手話で歌う“まほうの笛”～ 9/23(日)15:00～
●小西 潤子、高嶋 優羽、中川 正崇 他
●茨木市クリエイティブセンターホール
●一般1500円、ペア2500円(当日各500円増)
●072-622-9928(バリアフリーコンサート企画)

大阪ゲヴァントハウス合唱団
創立30周年記念演奏会 10/7(日)13:30～
●Eヒルズベルク、三井 ツヤ子、波多野 均、田中 勉 他
●兵庫県立芸術文化センター
●S席5000円、A席4000円、B席3000円
●06-6135-0503(大阪アーティスト協会)

小谷 朋子 ピアノリサイタル 10/13(土)14:00～
●大阪倶楽部4階ホール
●2500円 ●072-293-0488(増田 育三)

北野徹とパーカッショングループ大阪演奏会IX
10/15(月)19:00～
●いずみホール ●3500円(当日4000円)
●06-6135-0503(大阪アーティスト協会)

子供の不思議な角笛
10/18(木)19:00～ ●音楽の友ホール
11/4(日)14:00～
●兵庫県立芸術文化センター小ホール
●老田 裕子、佐伯 周子 ●一般3000円、学生1500円
●044-271-7027(ピアノミュージックジャパン)

増井一友ギターコンサートVol.8
10/25(木)19:00～ ●西宮甲東ホール
●1000円 ●050-3497-0294(夙川ギター倶楽部)

第3回 茨木新作音楽展
11/3(土)17:00～、11/4(日)17:00～
●八田 京子、高 昌帥、熊谷 美紀 他
●茨木クリエイティブセンター
●一般2500円、学生1500円
●osawa@kyokyo-u.ac.jp (大澤)

北川恵美ピアノリサイタル
11/4(日)14:00～
●フェニックスホール
●一般3000円、学生2000円(当日3500円/2500円)
●06-6135-0503(大阪アーティスト協会)

私の好きな音楽
11/17(土)昼の部 14:00～ 夜の部 18:30～
●白土 文雄、河村 典子、前田 智子 他
●八尾市文化会館プリズムホール小ホール
●2500円(当日3000円)
●070-6548-5285(「私の好きな音楽」実行委員会)

2pianos Ensemble 環 Concert Vol.3
11/25(日)13:30～
●安倍 美穂、内田 厚子、遠藤 希予 他
●目黒バーシモン小ホール ●2000円
●045-336-9044(水頭 説子)、0742-44-5179(北村 美奈子)

第44回 現代音楽作品の夕べ
12/1(土)16:30～
●今井 飛鳥、三善 有希乃、内藤 正彦 他
●トントレフ・ヒコ ●一般3000円、学生2000円
●naito1019@yahoo.co.jp(関西現代音楽交流協会)

ザロンで聴くバロック音楽 vol.2
12/18(土)14:00～
●大内山 薫、斎藤佳代、三橋 桜子 ●世良美術館
●一般3000円、学生2000円(お茶菓子つき)
●078-822-6456(世良美術館)

清水 淳彦ピアノリサイタル 12/22(土)15:00～
●ザ・フェニックスホール ●3000円
●06-6135-0503(大阪アーティスト協会)

Octet! 8人で奏でるピアノオーケストラ
12/22(土)16:00～
●綿谷 紗里、西邊 真樹、尾関 沙季 他 ●秋篠音楽堂
●1000円 ●090-4902-9279(尾関 沙季)

幸楽会 後援演奏会

Project SAKURA Autumn Concert
9/27(木)19:00～ ●石井 陽子、藤澤 曜子、
吉兼 妙、山本 萌美、赤松 由夏、道幸 明美、後藤 敏子
●島之内教会 ●2500円(当日3000円)
●080-1469-2615(石井)

Simple Gifts
9/28(金)19:00～
●伊藤 麻希子、伊野波 幸、紀之定 恵、野村 亜紀子、
本多 美知子、瀬戸口 文乃、松尾 久美子 他
●兵庫県立芸術文化センター小ホール ●2000円
●06-7177-1792(瀬戸口)

古楽アンサンブル風葉華心 Concert No.6
10/6(土)15:00～ ●ゲスト 高橋 弘治
●島之内教会 ●3500円(当日4000円)
●090-2017-2353(月岡)

名曲日和 星下がりのクラシック音楽
10/13(土)14:00～ ●森下 奈美、山田 晴美
12/8(土)14:00～ ●伊田 直樹、鈴木 陶子
2/9(土)14:00～ ●浅井 咲乃、テレマンアンサンブル
●メイシアター小ホール ●2500円(当日2800円)
※バスポート5500円(3公演入場可能)
●06-6380-2221(メイシアター)

武村 愛子 ソプラノリサイタル
10/24(水)19:00～
●ピアノ 中條 裕子、上原 輝子
●兵庫県立芸術文化センター小ホール ●2000円
●078-583-6113(神戸オペラカンパニー事務局)

そういえば小学生の頃 「素直に気持ちを表現しましょ」 っていう作文、苦手でした

学長になって、困ったなと思うことの一つが好きにものを言えないこと。自分とは関係ないところで発言が一人歩きしてしまいます。もちろん覚悟はしていたし、学長になる前も何でも好きなことを言っていたわけではありませんが、人間は役割で生きているのだな、と改めて実感しています。自分は自分だと思っていても、自分の行動や評価を決めるのは、他人の眼であり、周りの期待に沿って人は生きています。誰もが社会の中で与えられた役割に応えようとし、社会もそれを期待し、要求します。

他人から見れば、学長になって偉くなり、みんなに一目置かれ、好きなように振舞えて……、と思われるかもしれませんが、いつも他人に見られていると思うと不自由極まりない。無視されるのはつらいけれど、あまりかまわれない人間である私は、ああしろ、こ



うしろと指図されるのは嫌ですし、指図するのも苦手です。もちろん、学長になれば「ああしろ」と命令はされないけれど、「こうしてください」とお願いされる。何よりも自分でこんなこと学長が言っちゃまずいよな、と自己規制してしまいます（そういえば、キャンディーズは「普通の女の子に戻りたい」と言って、横綱千代の富士は「体力の限界、気力もなくなり……」と言って解散、引退しました。ああ、私もカッコいいこと言って早く引退したい）。

社会の中で生きることによって本能を抑制する、という進化を人類が選択した以上、仕方のないことなのですが、本能という自然を失った代償として、人間は芸術を生み出したのではないのでしょうか。しかし、音楽はそれが奏でられている瞬間にしか存在しません。ピンで留められケースに入れられた蝶は、自然の中で飛び回る蝶の美しさには及びませんし、道端で見つけた花の美しさをお徳する感性は作為を超越しています。つまりは本能を抑制せず自然であること、そして「幸せでなければ不幸せ」「自由でなければ不自由」といった二者択一的な思考から自由になることができれば……。

今回も言葉足らずでとりとめのない内容になってしまいました。でも、生きるって大変ですね。



いのう え あさこ ● 県立兵庫高等学校を経て大阪音楽大学卒業。フランス国立バリ高等音楽院サクソフォン科を首席で修了。『井上麻子×藤井快哉DUO』の活動を評価され、サントリー芸術財団「佐治敬三賞」など、受賞多数。

感動にピントを合わせて、印象的に！ 写真と音楽の関係

サクソフォン・講師 井上 麻子

教員
リレー
エッセイ
Vol.5

昔

から写真を撮るのが大好きな私。全くの素人ですが、最近流行の「カメラ女子」になるべく、数年前に念願の一眼レフカメラを手に入れ、ちよこちよこ写真を撮楽しんでいました。

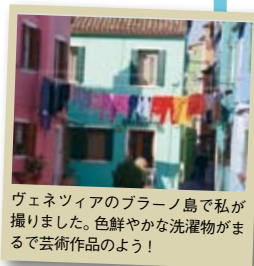
ケータイやスマホでも簡単に写真を撮って、ネットを通じてたくさんの人に見てもらえるようになった今日この頃。撮るときは「これ素敵！ みんなにもぜひ見てもらいたい」と思って撮ってはみたものの、いざ改めて写真を見てみると「……何が良かったの？」と疑問を持つてしまうような、イマイチ感動が伝わらない作品になってしまったことってありませんか？

写真はいわば大きな景色（対象物）を、限りある枠の中に切り取る作業。どう切り取るかで感動の伝わり方が全く違ってしまふんです。プロの写真家の作品は、一目見て『作品の一番見てほしいところ』に自然に視線が集まるように絶妙な構図になっていたり、ピントが合っている箇所以外を上手にボケさせたりして、作者がどこに感動して何を伝えたいのかがとても明確です。さすがプロ。ピンぼけの写真は問題外としても、画面の中に

今回は吹奏楽界でも憧れの存在である、**高昌帥**先生です。優しい笑顔が素敵♪
どんなお話をしていたくれるか、とても楽しみです。

ある景色すべてにびたりとピントが合っているからといって、良い写真になるとは限らないんですね。音楽も同じで、すべての音を楽譜通りに正確に演奏すれば必ず聴衆に感動が伝わることは限りません。どこにピントを合わせたら、自分がその音楽から受けた感動を聴衆に伝えることができるのか？ 最近はそのことを考えながら演奏するようになりました。一番表現したいフレーズがクローズアップされて聞こえるように、前後のテンポや強弱を調節したりしてバランス良く音を配置する。大事な音列がよく聞こえるように、背景のようないくつかの音はさりげなく演奏して、より主張すべき旋律を浮かび上がらせる。

感動を伝えるという意味では「写真を撮る」と「音楽を演奏する」の二つ、よく似ていると思いませんか？



ヴェネツィアのブラーノ島で私が撮りました。色鮮やかな洗濯物がまるで芸術作品のよう！

